

仕組みづくりに現場の声を

—新制度構築へ強いメッセージ

行政報告

多様な保育サービス実現 費用負担は社会全体で

今里 譲氏が強調



今里 譲氏

厚生労働省雇用均等・児童家庭局の今里譲氏は行政報告のなかで、はじめに幼保一体化について、平成25年4月の施行を目指し、子ども・子育て新システムの基本制度案要綱を23年通常国会に法案として提出するため、現場の声を聞き、みんなで作っていきたいという、同基本制度案要綱をとりまとめるまでの次世代育成支援の構築に向けた検討経緯を説明されました。

- ① 「育休休業・保育・放課後対策への切れ目ないサービス保障」については子育て支援サービスのための包括的・一元的な制度構築の検討事項について次のように指摘。
- ② 「利用者本位の仕組みの導入」は利用者本位の保育制度に向けた抜本的な改革が必要。
- ③ 「多様な利用者ニーズへの対応、潜在需要に対応した量の拡大」については多様なサービスメニュー、イコールフットリングによる株式会社・NPOなどの事業者の参入促進、サービスの質の向上の検討が必要。
- ④ 「地域の実情に応じたサービス提供」については基礎自治体（市町村）が実施主体となる。
- ⑤ 「安定的・継続的な費用確保」は社会全体（国・地方・事業主・本人）による費用負担（財源確保）が必要。子ども・子育て新システムの基本制度案要綱の目的・方針、新システムとは何かについて、
- 政府の推進体制・財源の一元化

「食べて、動いて、よく寝よう！」と題して、早稲田大学人間科学学術院教授の前橋明氏が記念講演されました。

近年の子どもたちは①睡眠リズムの乱れ②摂食リズムの乱れ③運動不足の3つの問題を抱え、昼夜の体温リズムをつかさどる自律神経の機能低下からホルモン分泌リズムの乱れを生じさせて体調不良になっている、

記念講演

食べて、動いて、よく寝よう

一点突破で生活リズム改善

早稲田大学教授 前橋明氏

これは精神的不安定さにもつながり、学力低下や体力低下の原因となると極めて科学的に説明。

得ることができる。

幼児は特に、午後9時までに就寝し、夜間の連続した10時間以上の睡眠が大切と強調されました。

ある家庭では、カーテンの生地を薄くして朝の光を浴びられるように工夫したり、起床の時に子どもの好きな曲を流すなど視覚や聴

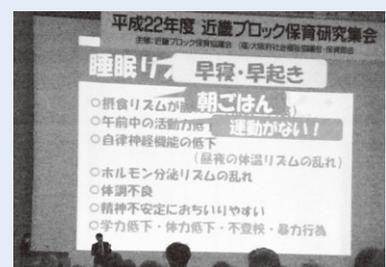
いなどであると強調。

幼保一体化については最後に再度触れ、「現場も多くの情報をキャッチし、それを吟味してください。仕組みをよりよいものにするためには現

場、臭覚を刺激する方法を紹介。生活の中で1つ改善すると、連鎖により生活リズムが改善する。「一点突破」が「全面突破」へつながるとわかりやすく解説されました。

乳幼児期の成長に深く関わる保育、保護者への継続的かつ活動的な働きかけの重要性を改めて感じさせられました。

(編集委員 M・K)



生活リズムが与える影響について講演

- 社会全体（国・地方・事業主・個人）による費用負担
- 基礎自治体（市町村）の重視
- 多様な保育サービスの提供
- ワーク・ライフ・バランスの実現

場の声が必要。それが日本の子どもたちの育ちを良くすることになる」と強いメッセージを送られました。

(南河学園附属国分保育園 Y・I)

子どもと家庭つなぐ食育

—第5分科会で大阪から発表

第5分科会報告

動物園と連携し堆肥集めも

—大阪市立味原保育所

「トマト育て」の感動を製本化

—津田保育園



津田保育園
園長 角谷洋子園長

「家庭との連携による食育の推進」をテーマに大阪府・市から発表。

大阪市立味原保育所では「愛情いっぱい、笑顔いっぱい、おいしく食べよう！」をテーマに、「食べたいもの、好きなものが増える子ども」「食べ物を話題にする子ども」を目標に食育に取り組みられています。

具体的には食べ物への関心を高めるため、食育クイズやエプロンシアターを日常の保育に取り入れ、菜園活動ではゴーヤ、ピーマン、大阪の伝統野菜、天王寺かぶらの栽培を行っています。

近隣施設との連携も活発。眞田山公園事務所からおいしい野菜の作り方を教えて

もらうほか、天王寺動物園から象の堆肥をもらい、その堆肥でじゃがいもを栽培、収穫したじゃがいもを象に届けているそうです。

津田保育園（枚方市）では、子どもたちと家庭をつなぎ「日々の感動」を伝えたいと考え、「トマト育て」「プールの野菜」「おべんとう作り」を実践されています。

「トマト育て」では自分でちで苗から育て、匂いや感触を味わい、驚きや発見を感じてもらおう。その感動を伝えるため、3歳児では劇、4・5歳児は絵と言葉で表現、それを製本化（「ありがとうトマトさん」）し保護者に渡され



絵本「ありがとうトマトさん」

ます。「プールの野菜」では野菜を水に浮かべ、野菜と触れ合う楽しい保育を実践。「お弁当づくり」では親子コミュニケーションを促進するのがねらい。お別れ遠足の弁当は子どもたちが自分の手でつくります。

助言者の大阪市立大学大学院教授、春木敏氏は「日常茶飯事を大切にすると食生活教育が心と身体を育む。食育は子どものためだけでなく保護者や保育者のためでもある。保育業界が一元化されていく流れの中で、保育者は専門家として実践力を持ってもらいたい」と助言されました。

（大野台保育園R・Y）

大阪の総力をあげる 多大なご協力に感謝

実行委員長 嶋田典之

平成22年度近畿ブロック保育研究集会は会員保育園の一致結束したご協力により無事終了することができました。

「大阪の人情味溢れる真心のおもてなし」を合言葉に、大阪府各ブロックから総勢140人のスタッフにご尽力賜り運営させていただきました。

交流会報告

元氣・勇気・笑顔 もらって親睦深める

オープンニングは箕面自由学園高等学校チアリーダー部 GOLDEN BEARS が登



GOLDEN BEARS

場。ジャパンカップ日本チアリーディング選手権大会で9年連続11度目の優勝を果たしたチームです。「元氣・勇気・笑顔」をモットーに活動中のチームらしく、笑顔とはじける元氣で大いに盛り上がり、参加者も元氣をもらったようでした。

引き続きステージは、大阪府保育部会・北摂ブロック加盟の保育園の職員で結成されたビッグバンド「きらめき☆オールスターズ」です。

「A列車で行こう」「インザムード」、そして「シング・シング・シング」。会場からは手拍子が巻き起こりムードは最高潮。アンコールはバンドを指導された落合智子先生も加わり「アイアイ」で締めくくられました。

（編集委員M・H）



きらめき☆オールスターズ

睨

アサヒヶ丘保育園は今年、30周年を迎えられました、四條睨市にある定員180人の保育園です。

節目の年にあたり、同園では記念の冊子を配布されました。表紙には「繋げる」と題字が添えられ、裏表紙には「つづく」と記されています。園の歴史と現在についてたいへん分りやすい冊子となっています。

この中の一節を紹介しましょう。歴史の重みとこれからの責任について触れた理事長先生の「桜の苗木」という文章です。

「開園時に植樹した門前

の桜の苗木も今では直径30センチを超える大木に成長し、その歴史の重みをしつかりと伝えてくれていきます。しかし、過去、現在

未来へと続く保育園に与えられた使命に思いを馳せますと、歴史の重み以上にその責任の重大さに身の引き締まる緊張感を覚えます。

(中略) 国の宝でもある次代を担ってくれる大切な子どもたちの明るい未来を展望し、開園時に掲げた『健全な心身の発達を目的とし、最善の保育を目指す』

とした本園の保育理念に沿って、(中略) 園児たちの成長を見守っていききたいと念願しております」

読後、自分の園を思い、身の引き締まる想いでした。これまで訪問した園は、

30周年迎え 「繋げる」「つづく」の使命と責任

待機児童解消に向け、 定員増やし180人

四條睨市 睨アサヒヶ丘保育園



大きな、大きなサツマイモ

待機児童解消に向け、定員増とし、同年齢2クラス制(別室や仕切りの利用)などを採用し工夫を凝らされています。

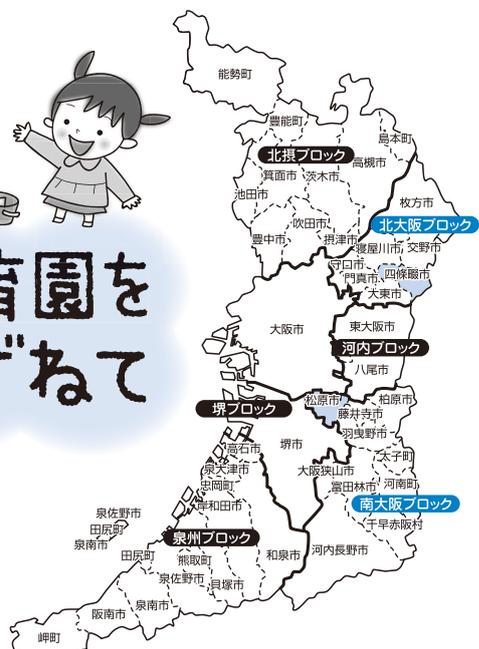
また、10年前の園舎拡張工事では部屋数の増加とともに、各保育室が以前より広くなるよう設計されたようです。待機児童解消のためとはいえ、大変な苦勞を伴う決断だと思われま

(編集委員J・H)



保育園を たずねて

410



天

美北保育園は、今年4月に開園されたばかりの保育園です。定員は170人。松原市の近鉄「河内天美」駅の近くに立地、

同駅近くにある約60年の歴史を持つ『天美保育園』を母体とした分園です(同じ社会福祉法人として他に松原保育園があります)。

園の外観は、コンクリートの打ちっぱなし生地の柱と木目ルーバーの3階建てのシックでオシャレな建物です。従来の保育園舎のイメージを破り、ちよつと研究所を思わせるような雰囲気を感じられます。

田畑に囲まれ、園庭も芝生の緑化をすすめられていますが、園児が頻繁に走り回っているところはやはり芝生もハゲがち。対処法を検討中とのこと。

園庭の隅にあるマンホールで作られたトンネルは、色鮮やかな遊具とは違い、単に土を覆っているだけのものですが、園児の憩いの場所として上々の人気だそう

です。

そこから見上げる屋上も、今はまだ低木ながらツツジなどが植えられ、こ

でも緑化が図られています。植樹による緑と無機質なコンクリート建造物との

コントラストが素敵な空間を演出しているようです。



真新しい園舎

今年4月に開園、園庭・屋上の 緑化図り上々の人気

知・徳・体の一つに 偏らず園児の生命力を育む

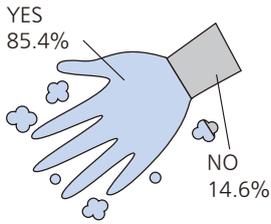
松原市 天美北保育園

また、発表会などの行事についても、「本来の目的を忘れて技術面のみ指導に偏ってしまわないよう、多角的な視野でもって園児を見つめていきたい」と園長は力説されています。

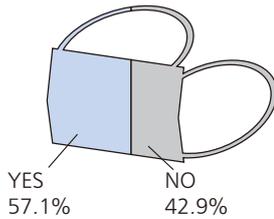
この保育園の今後がどうも楽しみだと感じました。

(編集委員H・M)

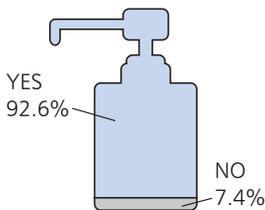
Q1 登降園の際に保護者や園児に手洗いの啓発をしている



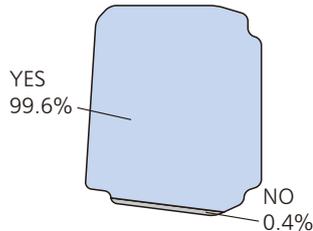
Q6 インフルエンザ対策として職員、園児にマスクの着用を指示している



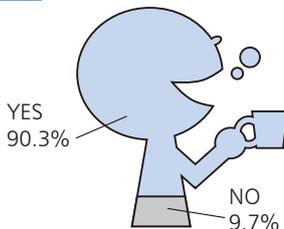
Q2 保護者や園児、来園者、職員が消毒できるようアルコール消毒をしている



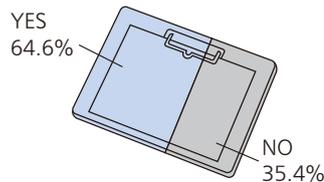
Q7 空気清浄機を設置している



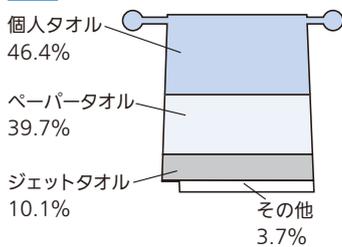
Q3 園内でうがいの時間を設けている



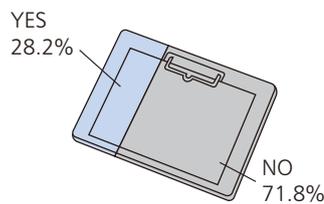
Q8 インフルエンザの疑いがあり、高熱の場合、登園児に熱が下がっていても医師の意見書を保育園に提出してもらう



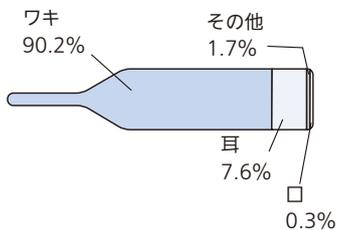
Q4 手洗い後の始末は？



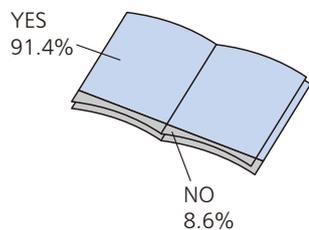
Q9 上記8で「はい」と回答された方にお聞きします。意見書を持参しなかった場合は保育を行う



Q5 検温の方法は？



Q10 保育園に感染症対策マニュアルがある



99%の園が空気清浄機設置

—感染症対策アンケートに259ヶ園から回答

今年6月に実施した「感染症対策」についての読者アンケートに、259ヶ園

から回答をいただきました。皆さまのご協力ありがとうございました。今回はその結果

をご紹介します。設問4の「手洗い後の始末は？」に対しての「その他の」の回答をご紹介します

と、「〇〇の時は個人タオル。□□の時はペーパータオル」といった年齢や時期（感染症流行時）によって使い分けるという回答が多くありました。

周知徹底
・マニュアルを職員に回覧が多く挙げられました。
設問12の「保育園でのインフルエンザ具休策を教えてください」と尋ねたところ、

「YES・NO設問に共通して言えることは、YESの割合がたいへん多く、特に設問7の「空気清浄機を設置しているか」については実に99%の園がYESと回答されました。

設問5「検温の方法は？」の「その他」の回答では、サーモフォークス（非接触式体温計）や赤外線体温計の使用がみられました。

この設問12については他にも様々な興味深い回答がありました。これについては次号からご紹介する予定です。（事務局）

お知らせ

第54回

全国保育研究大会

平成22年10月20日（水）～22日（金）の3日間、和歌山県民文化会館にて、第54回全国保育研究大会が開催されます。主催・全国保育協議会、和歌山県保育所連合会他。

開催要綱・参加申込書などについては、全保協会報「ぜんほきょう」6月号に同封し、全会員保育園に送られています。ご入用の園は保育部会事務局（大阪府社協・施設福祉部）までご連絡ください。

9001
Tel. 06(67662)

(事務局)



北大阪

ブロック創立30周年の年、一層の団結呼びかけ

亀井会長
—平成22年度総会

平成22年度北大阪ブロック総会が、6月11日(金)、大阪府社会福祉会館で開か

れました。今年度加入園を含め119園から85人が出席、すべての議案を満場一致で承認されました。



講演する高岡氏

研修会では、全国社会福祉施設経営者協議会会長の高岡國士氏が「最近の保育制度の動向について」をテーマに講演されました。

高岡氏は、民主党政権に変わり財源確保の問題を先

送りにされ不安定な中、福祉を取り巻く中央情勢や保育制度の果たす機能について指摘。

また、子ども子育て新システムの基本方向と課題に触れた後、これからの保育

所経営について言及し、幼保一体化になった時、幼稚園も含め、地域で選ばれる運営をどうしていくか、自園のニーズは何なのか、隣の園とはどう違うのか、その上でどんな特色を出していくのかを分析し乗り越えていく必要がある、自園は自分で守るべきだと強調されました。

その後の懇親会で、亀井信昭会長より「この北大阪ブロック総会の出席率

は、委任状を含め95%を超える。今年はブロック創立30周年を迎えるので、より一層会員園が団結し、今こそ襟を正し、各園がしっかりとした運営をしていきましよう」と呼びかけられました。

(編集委員M・S)

南大阪

対抗リレー、じゃんけん列車にみんな大張り切り

子どもから感動ももう一つ

—民間保育園大運動会

南大阪ブロック民間保育園大運動会が6月23日(水)、羽曳野市コロセアムで開催されました。障がい物競走、園対抗リレー、玉入れ、綱引き、じゃんけん列車や、フォークダンスでホーキポーキを踊りました。園児660人、保護者を

子を取り戻し、元気よく競技を楽しんでいました。なかでも園対抗リレーは優勝チームにトロフィーが授与されるため、子どもたちも大張り切り。各園を代表し選出された6人の子どもは、期待と責任の大きさにやや緊張気味。子ども以上に大騒ぎの保護者や担任の先生たちに見守られ必死に駆け抜けていました。なかにはバトンを落とす子、ころんでしまう子とさまざま。勝った子の笑顔や負けて悔しい子の涙。どの子どもにとっても貴重な経験となったことでしょう。

じゃんけん列車では、最後までじゃんけんで勝ち続けた子どもに「チャンピオンメダル」が授与され、とても嬉しそうでした。最後に、それまで競い合った子どもたちが互いに手を取り合いホーキポーキを踊り友好を深めました。

精一杯がんばり、悔しい思い出、楽しい思い出を作った子どもたちを目のあたりにし、逆に子どもから感動を与えてもらった思いでした。

(高屋保育園Y・N)

旬

8月、戦争を考える

体の熱冷ます夏野菜

例年8月になるとマスコミが、靖国神社への首相の参拜の可否を賑々しく取り上げる。まさに自虐！ まあ今年はないやろな。国旗法に反対した方だから。世界では、自国のために命を捧げた兵士は大切に葬られ、外国の要人はその国の無名戦士の墓に花と哀悼を捧げるのが国際儀礼となっている。我が国の墓は、明治以来、靖国神社である。玉串奉典を外国の方々にしていただいても良いのではないかと、やもすると戦犯も祀られているからダメだ！ と隣国から言われると、腰だけだにさせてきたマスコミ！ 自国の文化、伝統なども崩してあの戦争は誤りだ！ 悪いのは戦犯だ！

戦勝国による東京裁判、勝てば官軍の論理。あの「公人ですか、私人ですか？」の質問の放映を見ると疑問に感じる。祖国のためと信じ、尊い命を捧げた方々に、日本に生まれ、育った我々が、感謝と尊敬の念を抱きつつ、柏手を打つことが何故ダメなのか？ 社務所横に掲げられている「辞世の文」をじっくり読む。20歳前後にして、素晴らしく、奥深いまた親兄妹への想い等々。

昨年、靖国に詣でた際、長い間、先人への尊敬と感謝の思いを寄進という形で果たせたことが自分自身の心の中で何か安堵を感じた。戦争は絶対にダメだし、しかし、攻めて来られたら立ち上がる！ その気概は育ててもらいたい。今の公立小中学校では広島や沖縄方面に修学旅行へ出かけ平和への誓いの文を読み上げる。平和教育と云うそうなの。私たち戦争を知らない世代にとって、戦争とは？ この8月は特に歴史を検証し、当時の世界情勢などを顧みる季節かな？ アジアを欧米列強

より開放したことも知るべし。北朝鮮による拉致問題！憲法を変えてでも自国民を取り戻す気概を持つ国家を望むのは、難しいことやろな。暑い時には熱いモノ！ で、最初にタオルを引っかけた鍋でもどないだ！ 鱧すき、鱧しゃぶ、うどんもエエな。焼鯛の頭に昆布敷いて、湯豆腐もうまい！

暑い夏は体の熱を冷ましてくれる夏野菜が旬。以前も書いたが、旬のモノほど栄養価もありうまい。生野菜は梅ドレッシング、もろきゅう、焼きナスに冬瓜スープ、やはり水ナスの浅漬けが大将かな？ 辛味の効いた牛スジカレーに

なすびを入れても。(H・N)